

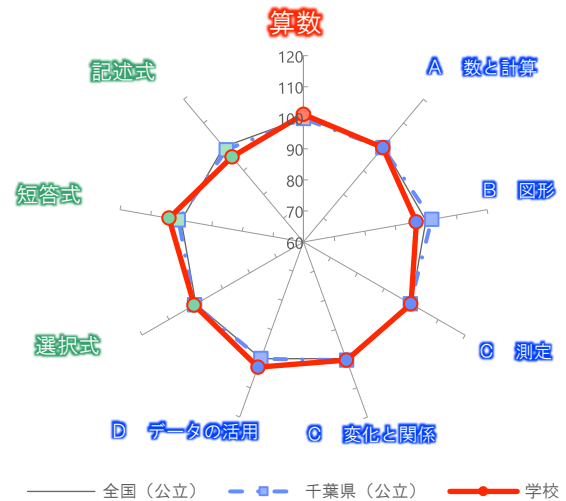
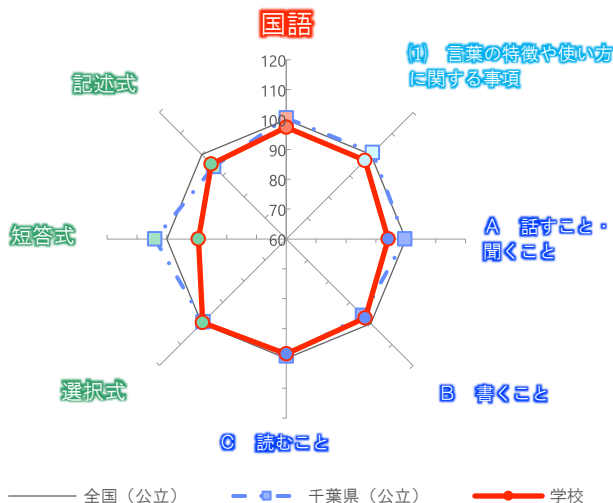
＜教科に関する調査＞

1 段目：学校 2 段目：千葉県（公立） 3 段目：全国（公立）

【国語】		設問数	正答率	相対値
全体	国語	14	63	97.4
			65	100.5
			64.7	—
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	66.4	97.2
			68.9	100.9
			68.3	—
			68.3	—
	(2) 情報の扱い 方に関する事項	0		
	(3) 我が国の 言語文化に 関する事項	0		
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・ 聞くこと	73.2	94.1
			77.6	99.7
			77.8	—
			77.8	—
	B 書くこと	2	59.1	97.4
			58.4	96.2
			60.7	—
			60.7	—
	C 読むこと	3	46.5	98.5
			46.8	99.2
			47.2	—
			47.2	—
問題形式	選択式	8	71.4	99.6
			71.2	99.3
			71.7	—
	短答式	3	63.1	89.4
			73.4	104.0
			70.6	—
	記述式	3	38.4	95.5
			37.9	94.3
			40.2	—

【算数】		設問数	正答率	相対値
全体	算数	16	71	101.1
			70	99.7
			70.2	—
学習指導要領の領域	A 数と計算	4	62.9	99.7
			62.9	99.7
			63.1	—
			63.1	—
	B 図形	3	56.1	96.9
			59.0	101.9
			57.9	—
			57.9	—
	C 測定	3	74.7	99.9
			74.6	99.7
			74.8	—
			74.8	—
	C 変化と関係	3	76.3	100.5
			76.3	100.5
			75.9	—
			75.9	—
	D データの活用	5	78.2	102.9
			76.0	100.0
			76.0	—
			76.0	—
問題形式	選択式	6	76.5	100.7
			76.4	100.5
			76.0	—
	短答式	6	78.8	104.0
			76.5	100.9
			75.8	—
	記述式	4	50.8	95.8
			52.3	98.7
			53.0	—

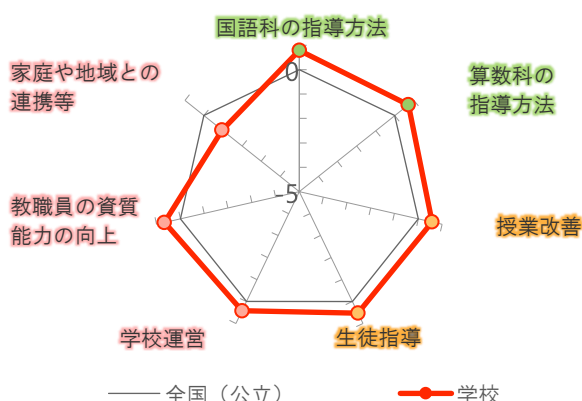
※教科レーダーチャートは、各区分の全国（公立）の平均正答率を100とした場合の相対値を示したものである。



＜学校質問紙調査＞

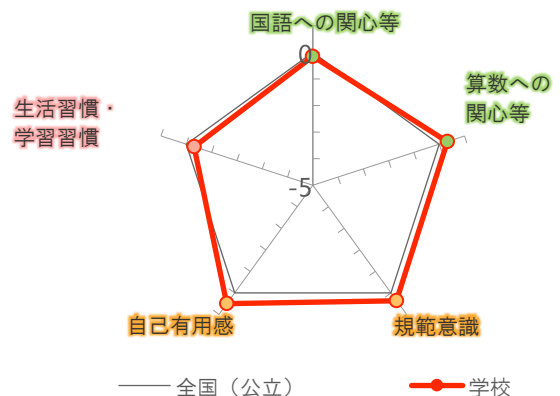
	国語指導	算数指導	授業改善	生徒指導	学校運営	資質向上	家地連携
パラメータ値	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	1.60
スコアZ	0.79	0.71	0.58	0.53	0.42	0.67	-0.95

※質問紙レーダーチャートは、文部科学省の「『全国学力・学習状況調査結果チャート』の作成方法」に基づき、「調査結果に関する補足説明 全国学力・学習状況調査結果チャートについて」に示された全国平均値及び標準偏差を基に算出した値を示したものである。なお、「教科学力」については、上記＜教科に関する調査＞と重複するため省略してある。



＜児童質問紙調査＞

	国語関心	算数関心	規範意識	自己有用	生活学習
パラメータ値	3.25	3.47	3.67	3.32	3.31
スコアZ	-0.15	0.32	0.36	0.50	-0.31



＜教科に関する調査の結果にみられる特徴と現状分析＞

国語の調査結果にみられる特徴と現状 全国平均よりやや低い理解度だった。 「読むこと」や「選択式」の問題については全国平均に近い力を持っている。一概に比べられないが、相対値だけ見ればこの2項目は昨年度よりポイントが上がったので、読書習慣を少しずつ身に付けていることや、国語専科が入ったことで国語の分野に多くの手がかけられている成果が出てきていると考えられる。 その反面、「話すこと・聞くこと」と「短答式」の問題が正答率が低い。ポイントを絞って話したり聞いたり文章を書いたりする機会の減少がその一因にあるのではないかと考える。	算数の調査結果にみられる特徴と現状 全国平均よりやや高い理解度だった。 特に「データの活用」の領域ではグラフからデータを比較して何をどのように比較し考察するのかについての理解が深いことが分かった。プログラミング教育や算数に限らず日常的にデータを比較して考察する習慣ができているためと考えられる。 また、正答率が低い領域は図形領域である。これは面積を求めることはできるが、図形の構成要素を探し出してそれを組み合わせて考察したり、筋道を立てて説明することが苦手な事が考えられる。図形をどう捉えて分析し、表現していくのが今後の課題である。
---	--

＜質問紙調査の結果にみられる特徴と現状分析＞

学校質問紙調査の結果にみられる特徴と現状 指導法は専科が入ったり、個別指導の体制が整ってきたりしているのでおおむね良好となっている。 また、校内研修や若年層研修を充実させたり授業改善の視点から指導計画をよりよいものに変更したりすることで、教員の指導力の向上と児童の理解力向上が図れている。 コロナ禍（特に休校や分散登校時）における児童の学習について家庭と連携してのサポート体制が不十分であったことや校外の方による学習支援サポートが実施できなかったために地域と連携した学習が機能しなかったと考えられる。	児童質問紙調査の結果にみられる特徴と現状 「ものごとを最後までやり遂げて嬉しかったことがありますか」や「将来の夢や目標をもっていますか」という設問に肯定的に回答した児童がほとんどで、そこから自己有用感の高さや規範意識を自分達で整えていこうという姿勢が見られる。 学習意欲が低いことが本校の課題であったが、授業での導入の工夫や学習ボランティアの活用、タブレットを用いた授業を入れたことで意欲が向上した。 生活習慣や学習習慣の部分が若干低い。これは、準備されたものをこなすのみの学習で、児童自身で考えて進めるような習慣が成立していないためと考える。
--	--

＜改善策・検証方法＞

改善目標 ①文章を深く読む習慣をつけさせる。 ②文章を書く力をつけさせる。 ③算数「図形」分野の問題に慣れさせる。 ④学習したことを自分で表現させる。	改善方策（どのような取組をいつ・どの程度 行うか） 国語の「話すこと・聞くこと」の分野では資料のどの部分に注目すべきか、どのような説明をすれば分かりやすく伝えることができるのかについて児童の表現力の向上も含めて改善していく必要がある。 調べたことや体験したことなどの発表する機会を多く設けるとともに、その際に「分からない相手にどの部分をどのような手法を用いて」説明するのかを指導の留意点として持たせて指導にあたる。 短答・記述式の問題では主語と述語や修飾語の扱いを明確にすることが必要である。短作文作成や授業のふり返りなど児童に負担感を持たせないところからの指導を行うようにしたい。 算数では図形のイメージを持たせるとともに図形の構成要素を出してそれを発達段階に応じてまとめることを授業の中で入れていく。 授業のまとめの部分を児童に発表させたり学習したことを発表する機会を多く設けたりすることで記述で回答する力や表現力の向上を図る。	検証方法（いつ・どのように検証・評価するか） 教育活動に関するアンケートや朝学習や宿題、授業で理解が浅いものは学年内でその内容が克服できるような問題を準備して考え方のポイントを理解させる。 基礎的な学習を行う「朝学習」の時間に現在行っている学習の問題を扱うのではなく、さらに前に学習した内容のふり返り問題を入れるようにして基礎学力の向上を図る。 また、学年から提出してもらう学力向上の取り組みがその時点で効果的に動いているのかを学期中間に評価・修正してもらい、よりよいものにしていく。
--	--	--

備考